

料金別納郵便



唐津 安永頼山 展

令和5年12月21日(木)~26日(火) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時（最終日26日は午後5時まで）

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

古唐津における「砂岩説」をご存じだろうか？ とくに初期の古唐津は、陶土ではなく砂岩を砕いて土にし、素地の原料にしたというものだ。古唐津の魅力に惹かれ、その追求とともに個人としての作品づくりを長く続けている陶芸家の中に、その説を検証してあらためて古唐津の研究や自身の作陶を見つめ直し、その成果を作品づくりに生かそうとする動きが見られる。

日本伝統工芸展や菊池ピエンナーレなどの公募展において、茶碗で入選してきた安永頼山（やすながらいさん、昭和45年生まれ）もその一人だ。陶土による作品づくりで結果を出しつつも、一度は手掛けてみないと前には進めないだろうと気になっていたことが、砂岩を原料とした作品づくりであった。そしてこのところ、個展の機会を使っではその制作の一端を示しつつある。

砂岩による茶碗の特徴は、土味や釉薬の変化が少なく、しずかでおだやかで派手さが少ない。見どころとしてきた要素がそぎ落とされて、一見しておとなしいという印象だ。陶土と比べ粘りもコシもあり、轆轤が挽きやすく、焼成では低い温度で焼き締まり、時間も短いという。それは別の方向から捉えると、これまでに得た知識とは異なった新たな構築プロセスの中で、新たな素材を生かす新たな技量が必要となる。

つくりたいモノに応じて陶土素地から砂岩素地までを駆使した安永の、より懐が大きく深い作陶の成果が見られるとともに、鑑賞者としても新たな発見がありそうだ。まさに過渡期となる今回の個展は見逃さないようにしたいものである。

唐澤昌宏（国立工芸館長）

- 陶歴** 昭和45年 島根県益田市に生まれる
平成13年 田中佐次郎氏に師事
平成15年 藤ノ木士平氏に師事
平成20年 現在地に登り窯を築窯
平成25年 田中佐次郎氏命名の「頼山」に改名
平成28年 京都野村美術館にて茶陶展開催、第63回 日本伝統工芸展 入選
平成29年 第34回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」入選
第7回 菊池ピエンナーレ 入選
令和元年 第25回 日本陶芸展 入選、現在形の陶芸 萩大賞展V 佳作
第8回 菊池ピエンナーレ 入選
令和3年 「近代工芸と茶の湯のうつわ」展 出品（国立工芸館／金沢）

柿屋ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com

公式Instagram



